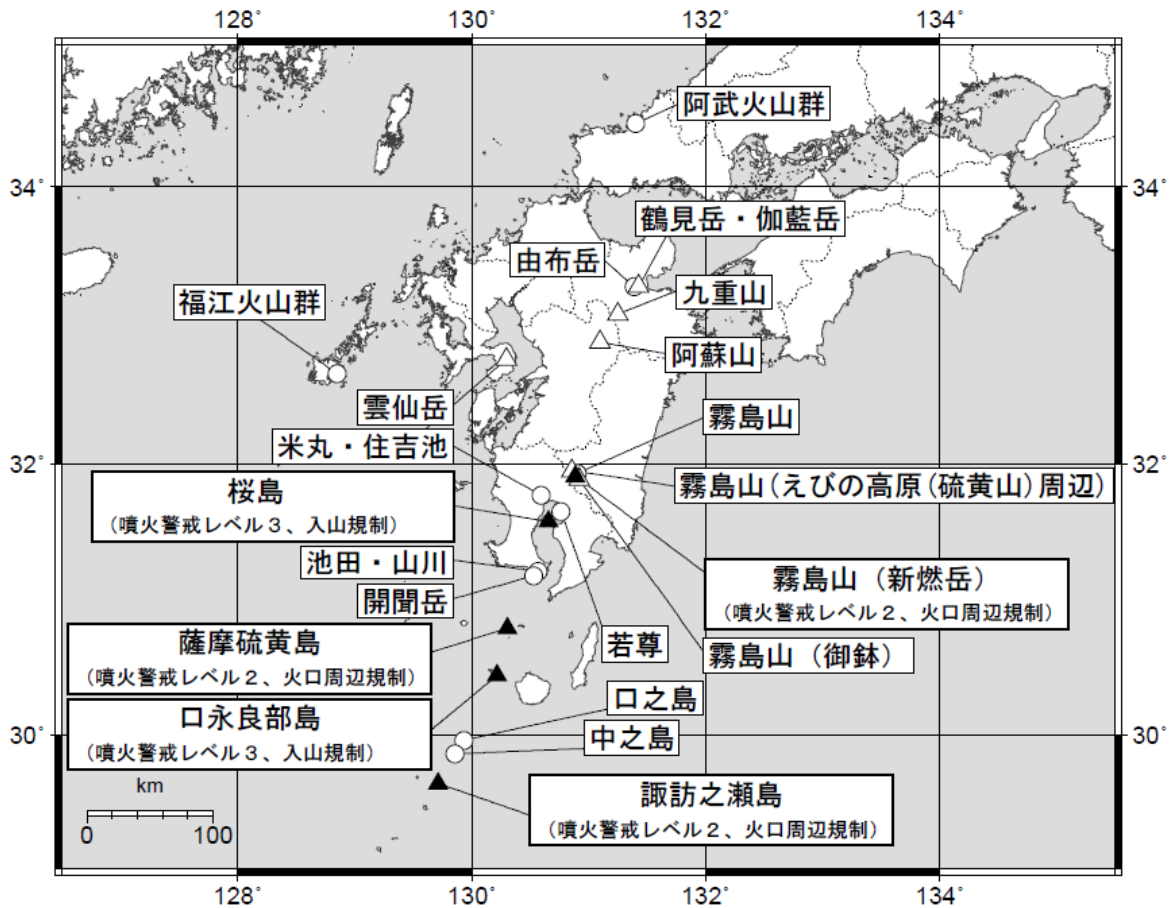


管内月間火山概況（平成 29 年 1 月）

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（2017年2月8日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル3（入山規制）	桜島、口永良部島
	レベル2（火口周辺規制）	霧島山（新燃岳）、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	鶴見岳・伽藍岳、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山（御鉢）
	活火山であることに留意	阿武火山群、由布岳、福江火山群、霧島山、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島



凡例

噴火警戒レベル対象火山 ▲：噴火警報発表中 △：噴火予報発表中
 噴火警戒レベル対象外の火山 ●：噴火警報発表中 ○：噴火予報発表中

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況（平成 29 年 2 月分）は平成 29 年 3 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町、十島村及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

阿蘇山では、2月7日（期間外）に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、1月13日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

薩摩硫黄島では、1月5日に噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

その他の火山では、予報警報事項に変更はありません。

鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、GNSS¹⁾連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

阿蘇山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）] ←2月7日（期間外）に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ

中岳第一火口では、2016年10月8日の爆発的噴火²⁾が発生して以降、噴火は発生していません。火山性微動の振幅は、小さな状態で経過しています。

傾斜計³⁾にも火山活動に伴う特段の変化は認められません。また、GNSS連続観測では、2016年7月頃から認められていた、草千里深部にあると考えられているマグマだまりの膨張を示す基線の伸びは、11月中旬以降は停滞しています。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量⁴⁾は、2016年12月は1日あたり1,000～1,700トンでしたが、1月に入り減少し、1日あたり1,000トン以下となっています。

18日と2月3日（期間外）に実施した現地調査では、2016年10月12日の観測と比較して、湯だまりの色は灰白色から緑色に変化し、量も増加していました。

以上のように、阿蘇山の火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断したことから、2月7日（期間外）14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

活火山であることから、火口内では土砂や火山灰を噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体等が実施している立入規制等に留意してください。

雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はありませんが、長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）] ←1月13日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ

えびの高原（硫黄山）周辺では、2016年12月12日に火山性地震が70回と増加しましたが、その後は1日あたり5回以下と少ない状態で経過しました。火山性微動は2016年12月13日以降観測されていません。

山体の隆起を示す傾斜変動は、2016年12月16日以降観測されていません。

2016年12月16日から31日にかけて、一時的に噴気の高さが稜線上100m以上になり噴気活動の活発化がみられましたが、その後は概ね稜線上30mで経過しました。

2017年1月11日に現地調査及び九州地方整備局の協力により上空からの観測を実施し、噴気や熱異常域⁵⁾に大きな変化がないことを確認しました。

これらのことから、えびの高原（硫黄山）周辺の火山活動は低下しており、硫黄山周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、13日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

火口周辺では火山ガスに注意してください。活火山であることから、火口内で、火山灰、噴気、火山ガス等の規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

地元自治体を実施している立ち入り規制等に留意してください。

霧島山（新燃岳）^{きりしまやま しんもえだけ} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳では火山性地震が時々発生しました。

GNSS 連続観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015 年 1 月頃から停滞しています。また、新燃岳周辺の一部の基線で、2015 年 5 月頃からわずかに伸びの傾向が認められていましたが、2015 年 10 月頃から停滞しています。

新燃岳ではこれまでも火山性地震が時々発生しており、火口内及び西側斜面では弱い噴気や熱異常域⁵⁾が確認されていることから、今後の火山活動の推移に留意してください。

新燃岳では火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁶⁾に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石⁶⁾（火山れき⁷⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

霧島山（御鉢）^{きりしまやま おはち} [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

桜島^{さくらじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

桜島では、ごく小規模な噴火も観測されていません。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されていません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、少ない状態でした。

桜島の噴火活動は 2016 年 8 月以降低下していますが、始良カルデラへのマグマの供給が継続していることから、火山活動が再び活発化する可能性があります。引き続き火山活動の推移に注意が必要です。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流⁸⁾に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島^{さつまいおうじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）] ←1月5日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引上げ

薩摩硫黄島では 2017 年 1 月 1 日から火山性地震が増加し、概ね多い状態で経過しました。

薩摩硫黄島では火山活動が高まっており、小規模な噴火が発生する可能性があること判断したことから、5 日 11 時 00 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に上げました。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では降灰、風の影響を受ける小さな噴石及び火山ガスに注意してください。

口永良部島^{くちのえらぶじま} [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

火山性地震の月回数は、51 回で、前月（2016 年 12 月：82 回）に比べて減少しました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 70～300 トンで経過しています。

現地調査では、噴煙及び熱異常域の状況に特段の変化はみられませんでした。

2015 年 5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっていますが、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2014 年 8 月の噴火前よりもやや多い状態で経過していることから、引き続き噴火の可能性がります。

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

御岳^{おたけ}火口では、噴火が時々発生しており、活発な火山活動が継続しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 2) 阿蘇山では、火道内の爆発による地震を伴い、火口周辺の観測点で一定基準以上の空気の振動を観測した噴火を爆発的噴火としています。桜島では、火道内の爆発による地震を伴い、爆発音、体に感じる空気の振動、噴石の火口外への飛散、または、気象台や島内の観測点で一定基準以上の空気の振動のいずれかを観測した噴火を爆発的噴火としています。諏訪之瀬島では、島内の観測点で一定基準以上の空気の振動を観測した噴火を爆発的噴火としています。
- 3) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1 μ radian (マイクロラジアン) は 1 km 先が 1 mm 上下するような変化です。
- 4) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた二酸化硫黄、硫化水素や水蒸気など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマの蓄積の増加や浅部への上昇等でその放出量が増加します。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。
- 5) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置とは物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 6) 噴石については、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 7) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 8) 火砕流とは、火山灰や岩塊、空気や水蒸気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十 km から時速百 km 以上、温度は数百℃にも達することがあります。